

家畜衛生情報

伯耆町金屋谷
電話:62-0140

■今月号のトピックス

1. ピートンウィルス
2. 子牛の疾病予防
3. 口蹄疫情報
4. バルク乳検査 (冬季)



農場の出入口には、看板を設置し、消石灰を定期的に散布して関係者以外の出入りを制限しましょう。

ウシヌカカ



1 ピートンウィルス

蚊などの節足動物が伝搬するウイルス性疾患をアルボウイルス感染症と言い、牛ではアカバネ病、アイノウィルス感染症、チュウザン病、イバラキ病などがよく知られています。

流行は通常、これらの節足動物の活動が盛んになる夏～秋にかけて起こり、妊娠期間中の胎齢により、死流産、骨格筋異常、関節湾曲、脳形成不全などの様々な病態の異常産を引き起こします。

温暖化の影響で、これまで日本では確認されていなかったアルボウイルスも確認されてきています。ピートンウィルスもそのうちの一つです。1999年に九州で初めて分離され、その後、九州や沖縄地方では毎年のように確認されていましたが、近年は、中国～東北地方でも確認されるようになってきています。

本県でも毎年、一部の農家の方に協力いただき、アルボウイルスの動向調査を行っており、今年度の調査で、本県でもピートンウィルスの感染が確認されました。

ピートンウィルスがどの程度、異常産を起こさせるのか、まだまだ不明な点も多いですが、アルボウイルス感染症による異常産は、見た目では区別が付きません。

～異常産があった場合は、とりあえず家畜保健衛生所へ御一報ください！～

今後も地域全体として、アルボウイルスの流行に備えたワクチン対策を行っていきましょう！



□ H19年に鳥取県で初めて確認されたピートンウィルス感染による異常産(九州から初妊導入した牛の産子)

ピートンウィルス抗体調査結果 (2016. 6～8月期)

伯耆町
陽転 1/2 (戸)
3/7 (頭)



鳥取市
陽転 1/2 (戸)
2/7 (頭)

八頭町
陽転 2/2 (戸)
3/6 (頭)

本紙は、「家畜衛生情報ファイル」に綴っておいてください。

2 子牛の疾病予防

幼齢期に下痢をすると
栄養状態の悪化は一時的であるように思われるが…

見かけは
治った！

免疫力の低下は、最低3ヶ月以上継続する！

→ 肺炎、下痢などの感染症にかかるリスクが増加
肺炎や下痢にさせないために**元気な子牛＝免疫力が高い子牛を育てることが重要です！**

✓ 出生前の胎生期から見直そう！

母牛の妊娠末期(およそ60日間)において、胎子は急激に成長します。この間に母牛のストレスを低減し、栄養状態を満たすことで、**胎子の初乳抗体を受け入れるための腸管の成熟や、出生後の免疫機能を左右する胸腺の発達が向上します。**

また、母牛の栄養状態は、初乳の質・量にも影響を及ぼします。
さらに…

母牛からの栄養を受け取れないと胎子の発育も遅れ、身体構造的にも虚弱な胎子が産まれるだけでなく、分娩機構がうまく働かなくなり、妊娠期間の延長・難産へとつながります。

✓ 飼料の適切な給与

子牛は約3週齢までは乳由来でない蛋白質をほとんど消化吸収できません。9週齢あたりから乾草の摂取量が増し、ルーメン(第一胃)絨毛が発達することで、ようやく乾草を栄養源として利用可能になります。ルーメン形成において、**スターター＝絨毛の形成、粗飼料＝容積拡大、水＝微生物発酵を促進**と給与意義が異なります。哺乳子牛には、柔らかい乾草(自身の鼻粘膜に突っ込んでも痛くない硬さ)を給飼しましょう！5cmくらいにカットすると反芻のトレーニングになるそうです！

適切な哺乳・飼料給与により、良好な栄養の吸収＝良好な発育、免疫機能の維持につなげましょう！

3 口蹄疫情報

韓国・中国での継続的な発生に加え、近況では、モンゴル(H28.7.16)、ロシア(H28.10.16)における発生が確認されています。

引き続き飼養衛生管理の徹底や早期発見に期して下さい。

4 バルク乳検査(冬季)

牛ウイルス性下痢粘膜病の持続感染牛と黄色ブドウ球菌保菌牛の早期発見等のため、12月5及び6日(大乳本所で採材)の乳で検査させていただきます。御承知おき下さい。

[編集後記]

中部での地震の被害や影響がまだ残っていますが、大変な時こそ、一丸となって皆で支え合い乗り越えていきましょう。今年も残りわずかとなりました。冷え込む日々が続きますが体調にお気をつけ下さい。

ウイルスを農場入口でブロック！
消毒槽を設置しましょう！

踏込消毒槽
10%消石灰水

消石灰：1kg位
+
水：10ℓ位

まずは
①自身の農場から！
次へステップアップ
②地域防疫を！